

新型コロナウイルスについて —PCR検査を中心に—

公益社団法人 愛知県臨床検査技師会 学術部 微生物検査研究班

注意事項

- ・ 公開時点での最新情報に基づいていますので資料によっては更新されている可能性があります
- ・ 特定の試薬や検査法を推奨するものではありません
- ・ 本資料においては抗体検査、抗原検査は扱っていません
- ・ 情報共有と提供だけを目的にしておりますので、自施設で採用される場合は検証等を必ず行ってください

検体採取について

検体送付の優先順位	検体の種類	量
1	下気道検体 (喀痰、気管吸引液)	1-2ml
2	鼻咽頭ぬぐい液*	1本

* 2020/2/19 に上気道検体としては、**咽頭スワブよりも鼻咽頭スワブの方が、ウイルス検出感度が高いこと**が報告されています
(N Engl J Med. 2020 Feb 19. doi: 10.1056/NEJMc2001737)。

* スワブの素材としては、フロックスワブが指定されていましたが、材料の供給不安定化に伴い、

材質にレーヨンやポリエステルを含む綿棒などもOKとなりました。

2019-nCoV (新型コロナウイルス)感染を疑う患者の 検体採取・輸送マニュアル ～2020/04/16 更新版～

https://www.niid.go.jp/niid/images/pathol/pdf/2019-nCoV_200416.pdf#search='nCoV%E8%BC%B8%E9%80%81%E3%83%9E%E3%83%8B%E3%83%A5%E3%82%A2%E3%83%AB0416'

検体採取について

日本臨床衛生検査技師会が

「新型コロナウイルス（COVID-19）PCR正しい検体採取方法」を
日本耳鼻科学会の制作・監修のもとで作成しました。



<http://www.jamt.or.jp/covid-19/2020/05/covid-19pcr.html>

*** 検体採取に関わる方はぜひともご参考にしてください**

PCR検査材料としての唾液について

海外ではPCR検査における唾液の有用性が検討されている。

日本においても検討がなされている状況である。

唾液を検査材料とする利点は3つある

- ・採取時の患者負担の軽減
- ・採取者の感染リスク軽減
- ・採取スワブの供給不足への対応

PCR検査に供する検体について

行政検査の場合

必ず管轄の保健センター等にご確認をお願いします。

(試薬が枯渇しつつあるため、検体種類を限定している場合があります。)

自施設で実施する場合

検査機器、試薬によって検体処理方法や適応が異なるので

必ず添付文書等を確認してください。

ウイルス輸送液がない場合の対応

ウイルス輸送液入りスワブの枯渇

検査数の増加に伴い、ウイルス輸送液入りスワブが枯渇しており、入手困難な状況

PBS(-)や生理食塩水で代用する

検体採取したスワブや綿棒を滅菌スピッツに入れる

スワブ等を入れた滅菌スピッツにPBSあるいは生理食塩水を1-3ml加える

*DNase, RNaseフリーのPBS溶液は市販品が入手可能

検体の保存方法について

- ・検体採取後、可能な限り速やかに**氷上**または**冷蔵庫（4°C）**に保管
 - ・輸送開始までに48時間以上かかる場合、**-80°C以下で凍結保存**
- * -80°Cの冷凍庫がない場合は通常の冷凍庫(-20°C程度)で代用可

保管方法は検査結果に影響(偽陰性)を与える可能性があるため、
夜間、休日にも検体が提出される場合は、保存方法について関係者にきちんと周知する